

東京地方壮年連合通信 vol.78

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN

2018年7月14日

弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」ヨハネ6：8-9

大井バプテスト教会牧師 広木 愛 (ひろき あい)

地方連合での壮年のみなさまのお働きに心から感謝致します。励ましのメッセージをと言われ、「困ったなあ」と思いましたが、ヨハネ福音書 6 章の「5,000 人 (以上) の共食」から教会を共に考えていければと思っています。

私は、これまで、この箇所に出てくる少年は、持っているものを「主にささげる信仰的な少年」と教えられ、「この少年に倣って、私は何をささげることができるのか」と励まされる聖書の箇所とっていました。しかし、最近 (今更ですが) この箇所を読んでいて、この少年が自発的にささげた記述がどこにもないことに気づきました。すると、「えっ!? アンデレさん、勝手に人のもの、イエスさまに差し出そうとしたの!? しかも少年だよ?勝手に少年、舞台上に上げといて、何の役にも立たないけどね…って本人目の前にして言う!」ツッコミどころ満載です。これまで、アンデレをひどい人にしないために、イエスさまの奇跡、信仰的解釈をもって、「すべてをイエスさまにささげる模範的少年像」を読んでいたのかもしれませんが。

この箇所をまとめると、アンデレは、イエスさまの役に立ちそうな人を紹介する。紹介された少年は、成人しておらず、一人の人とは認められていないので、アンデレの言われるまま。そんな少年の姿を見たイエスさまは、少年の悲しみに寄り添って、「役に立たない」と言われた五つのパンと二匹の魚を「感謝の祈り」をささげ、そこに集っていた男だけで 5,000 人 (きっともっとたくさんいたでしょうが…) と一緒に食事をされました。

教会は、今、教会の役に立つ、「人材 (人的材料)」が来ると喜び、将来の教会の役に立つ「人材」が少ないことに悲しみます。でも、私たちが五つのパンと二匹の魚を分かち合うのは「人材」ではなく、神さまが大切に命を吹き込んでくれた「ひとり」の集まりです。

「役に立たない」ものを「感謝して祈る」イエスさまの姿を見つめながら、

教会が人の命を「モノ」化する場所となってしまうないように、「感謝して祈る」私でありたい。もし人を「モノ」としてしまう時も、イエスさまがその命を「感謝して祈る」姿から悔い改めに導かれ、従っていく者、教会とされたいと願っています。

全国壮年会連合の会長として

山田誠一（大井バプテスト教会・やまだ せいいち）

私は7年間東京地方壮年連合の会長として、みなさまと共に東京地区での壮年の働きに参加させていただきました。そして今、全国の壮年会の働きに遣わされています。なぜ、私はここに立っているのだろうか？少し振り返ってみます。

10年ほど前、大井教会からほとんど外に出たことのない私が東京地方壮年連合の役員会に突然出席することになりました。当時、大井では教会学校の校長を務めていました。教会学校の全体教師会の後、滝川佳秀兄から「今度の土曜日10時に大久保教会に来てほしい。来れば分かるから…」と言われて、なぜか素直に行く気になり、そのようにしたのがきっかけでした。そこで行われていたことは、東京壮年連合の設立総会に向けての熱い議論でした。私を誘った滝川兄の姿はなく、後日彼に聞いてみると、「今、大切などころにある。あなたが必要だ。」と言われました。彼は自分の後釜として私を遣わしたのだと思います。そして、何が何だか分からないまま役員会に参加しているうちに、こんなに熱い思いでここに参加している壮年たちがいることに心を惹かれました。知らないうちに私も真剣に討論に加わっていました。そして、その後の東京壮年連合の設立総会には議長として関わることになり、後に会長へと担ぎ込まれていきます。気がついてみると4期目7年を歩んでいました。

さて、そんな東京壮年連合での歩みの中で、4年ほど前から他の地方連合の友から、全国の壮年連合会長として立って欲しい（一緒にこれからの全国壮年会をやっていこう）という要請が続いていました。何とか理由をつけて断り続けてきたのですが、不思議なことに2年前の北九州での壮年大会の時に再度この話となり、私は受ける思いを与えられました。その後、色々と悩みましたが、現在に至っています。

振り返ってみて、そこには私が願ったことでもない、思いもしなかった道を歩まされているという現実気づかされています。神の導きなのでしょうか。私に担えることではないと思いつつ、こんな者でもよろしければと従い歩んできましたし、これからもそうしたいと願っています。そこには主の導

きだけではなく恵も伴っているからです。

みなさんも教会の外での奉仕の声が聞こえてきたら従ってみて欲しいのです。主が共に働いてくださいますから、一步前に進んでみてください。

地方連合壮年会等代表者会議の報告

竹下達也（恵泉バプテスト教会・たけした たつや）

6月22日～23日、連盟事務所にて開催された地方連合壮年会等代表者会議（以下、代表会議）に、東京地方壮年連合会長として出席いたしました。

昨年度、総会の一部機能を代行するよう代表会議の運営のあり方が見直され、そのトライアルの年となります。ただ実際に運営しようとする、規定等の手当てが不備で、そこに役員が多大な労力をかけ苦勞されている姿が見えます。壮年会がなすべき活動について議論がおろそかにならないようみんなで力を合わせたいと祈られます。いずれにしましても、2017年度の活動内容は承認されました。

新役員体制で2018年度は計画が進められますが、山田会長の強い思いでもある「自立したバプテストの信徒」として教会形成を担い、伝道者育成の業に壮年が積極的に参加していければと思います。「神学校献金」は、名称のためかいまだに「奨学金のため」であることへの理解度が不足していることや、連盟から委託された「神学校献金（神学生奨学金献金）」について、連盟とのコミュニケーションを深化させつつ、制度面や推進に当たっての体制強化を図っていく必要性など確認し合いました。

献金目標額は3,000万円を据え置きます。まだ神学校献金や連合会費について理解が十分ではありません。各教会・伝道所に丁寧な説明がまだまだ必要で、そうした活動を通じて、孤立化していく教会や壮年を励まし合っていくことができると祈ります。

【今後の行事予定】

2018年07月14日（土）定例役員会 10:00～ 会場：大久保教会
連合通信 78号発行

発行人：東京地方壮年連合会長 竹下達也

編集人：佐藤洋二

連絡先：千葉県柏市東中新宿4-7-5-104 〒277-0061

tel. 090-9834-9464 e-mail. qp4316_1107yahoo.co.jp



第53回全国壮年大会 in 仙台のお知らせ

東北バプテスト連合壮年会

我等は浸（しずめ）、バプテストでござる。

東北連合壮年会から第53回全国壮年大会開催のお知らせを申し上げます。
私たちを取り巻く情勢は年々厳しさを加えています。政治、経済、社会の大きな流れの中でどう向き合っていくのか、様々な問題や課題を前にどのように教会形成を進めていくのか、壮年の一人ひとりが問われています。

東北バプテスト連合壮年会が担当する今大会で「バプテスト」にもう一度出会って頂き、バプテストの先達が目にした東北の地で、確信と決意を新たにしたいと願っています。

大会会場は尚綱学院中学校・高等学校をお借りしました。同校は1890年、バプテストの宣教師ラヴィニア・ミードが仙台で家塾を開き、1892年「尚綱女学会」として歩みを始めました。最初の一步の地で、明日への一步を皆様と踏み出したいと思えます。

日時 2018年8月17日(金)～18日(土)
場所 尚綱学院中学校・高等学校礼拝堂
(宮城県仙台市青葉区八幡 1-9-27)



8月17日(金)	2階礼拝堂&1階大講義室	8月18日(土)	2階礼拝堂
12:00	受付	08:30	受付
13:00	開会礼拝(礼拝堂) 説教 杉山修一(山形)	09:00	全国壮年会連合定期総会 (120分・礼拝堂)
13:40	オリエンテーション	11:00	提唱・アピール(20分)
13:50	休憩(10分)水分補給	11:20	休憩(10分)
14:00	主題講演(礼拝堂90分) 講演 松岡正樹	11:30	閉会派遣礼拝(40分・礼拝堂) 説教 金丸真
15:30	休憩(10分)水分補給	12:10	提唱・感謝の言葉(20分)
15:40	特別授業(礼拝堂) 講演 石垣政裕(仙台小劇場)	12:30	散会案内(10分)
16:40	休憩(10分)水分補給	13:00	宮城県知事公館見学(希望者)
16:50	レセプション(大講義室)	14:00～16:00	オプションツアー(仙台教会出発)
17:50	休憩(10分)移動		街歩き「キリスト教黎明期の仙台」 —奥州街道を歩く—
18:00	追悼と黙想の夕べ(礼拝堂)		
19:00	散会		